

モニタリング結果報告書（平成25年度下半期）

施設	相模湖交流センター
指定管理者	アクティオ株式会社
指定期間	H23.4.1 ～ H28.3.31
施設所管課	土地水資源対策課（ ）

今期の指定管理者の管理運営状況（1～6の結果を踏まえた総合評価）

C

（総合評価の基準）

- A：極めて良好な管理運営状況である。
（「1 管理運営等の状況」を含むAが3つ以上で、CとDが1つもない場合）
- B：良好な管理運営状況である。
（Cが1つ以下でDがない場合）
- C：一部改善が必要な管理運営状況である。
（Cが2つ以上の場合。または、Dが1つの場合）
- D：抜本的な改善が必要な管理運営状況である。
（Dが2つ以上の場合）

< 1 管理運営等の状況 >
 提案に基づいた多様な自主事業を開催しているが、2月の大雪の影響による自主事業の延期や貸館利用のキャンセルなどの影響により、利用者数については前年同期を大きく下回った。しかし、下半期利用率については、前年同期と比べ多目的ホールが87.3%から90.9%、アートギャラリーは45.7%から56.9%と向上しており、館の管理運営については、利用者にも好評を得ている。

< 2 収支状況 >
 収支状況については、下半期に積極的な修繕を行いながらも収支差額は収支計画比2.3%プラスとなったためB評価となった。

< 3 利用状況 >
 今年度下半期の利用者数は、全ての月において前年度を下回り、前年対比で20%のマイナスとなりD評価となった。利用者数が減少した要因としては、昨年度1月に開催した自主事業が大変好評であったこと、2月の大雪の影響による自主事業の延期や貸館利用のキャンセル、貸館の大口利用者の減少などが挙げられる。しかし、目標値を設定しているホールとギャラリーの利用率については、ホール80%に対し90.9%、ギャラリー65%に対し56.9%であるが、それぞれ前年の利用率も上回り順調であるため、来館者の確保に向けて、魅力ある自主事業等の実施を指導した。

< 4 利用者の満足度 >
 自主事業開催時に入場者全員へアンケート調査を実施し、上位2段階の回答割合が85%となったため、A評価となった。回収率は、筆記用具の貸与や積極的なアナウンスにより今年度下半期は51%と昨年の年間回答率34.4%を大きく上回った。

< 5 苦情・要望等 >
 特になし

< 6 事故・不祥事等 >
 特になし

< 今後の方針等 >
 自主事業については、引き続き水源地域の交流拠点として効果ある自主事業を開催すると共に、利用者への配慮ある施設運営に努めながら、更なる利用率の向上及び平成25年度の利用者数を上回る取組に期待したい。

1 管理運営等の状況

評価 **B**

（評価の目安）

- A：事業計画、仕様書等の内容を上回る事業を実施した。
- B：概ね事業計画、仕様書等の内容どおりに事業を実施した。
- C：事業計画、仕様書等の内容のうち、一部の事業を実施していない。
- D：事業計画、仕様書等の内容のうち、半数以上の事業を実施していない。

(1) 事業の実施状況

	提案内容	実施状況等
1 (自主事業)	施設を「アクアロジカル・コミュニティーセンター」すなわち、(1)平和・友好・共生のシンボルとして、(2)水源地域の自然の保全をPRする場として、(3)活性化のためのハブ機能として、(4)豊かな自然、美しい水と触れ合う場所として及び(5)様々な交流の場を提供する「コミュニケーションセンター」として、多様な自主事業を開催し、サービス向上により利用者の拡大を図る。	1. 「相模湖能 井筒」(ホール)及び「面打ち師 新井達矢の世界」(ギャラリー) ・開催日：10月5日 (面打ち師 新井達矢の世界は10/1～10/9) ・入場者数：165人 ・内容：「相模湖能 井筒」は過去に相模湖与瀬神社で行われていた能舞台であり、地元の要望を受け開催した。また、ギャラリーにおいては「面打ち師 新井達矢の世界」を開催し、ホールとギャラリーを活用した自主事業開催となり、地元からも大変好評であった。

	提案内容	実施状況等
2 (自主事業)	同上	2. 長渕悦子×志保美悦子フラワーアレンジメント (ギャラリー) ・開催日: 11月19日 ・入場者数: 54人 ・内容: 長渕氏がフラワーアレンジメントで活躍中であり、水源地をPRするイベントとして、当初は30名限定でワークショップを開催する予定だったが、地元以外からも多くの応募があり、予定を超える人数での開催となるなど、大変好評であった。
3 (自主事業)		3. ワンコインコンサート (ホール) ・開催日: 11月23日 ・入場者数: 118人 ・内容: 地元の若い音楽家の育成の場として、東京藝術大学同期生4人によるワンコインコンサートを開催した。クラシックのカルテットではあったが、地元参加者からも大変好評であった。
4 (自主事業)		4. 湯川れい子プレミアムコンサート (ホール) ・開催日: 12月23日 ・入場者数: 178人 ・内容: 水源地の活性化を図るため、地元まちづくり団体「湖の星」との共催で、音楽評論家湯川れい子氏とゴスペルグループを招き、子供・大人・親子参加型のクリスマスシーズンを共に過ごす自主事業を開催した。参加者からも好評をいただき、地元との連携による賑わいのあるイベントとなった。
5 (自主事業)		5. ふくとえ展示 (ギャラリー) ・開催日: 3月6日～3月21日 ・入場者数: 318人 ・内容: 若い世代への水源地PRのため、若手服飾デザイナーと画家とのコラボレーション展示を開催した。世界的人気歌手「レディ・ガガ」からオファーがあったデザイナー等のイベントであったため、地元以外からも若い世代が多数訪れ、賑わい効果をもたらす展示会となった。

(2) 月例報告書による確認状況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考 (指導事項等)
			月報確認	現場確認	電話確認		
10月	11月8日	11月29日	○	—	○	無	
11月	12月10日	12月18日	○	—	○	無	
12月	1月10日	1月20日	○	—	○	無	
1月	2月10日	2月25日	○	—	○	無	
2月	3月10日	3月18日	○	—	○	無	
3月	4月10日	4月17日	○	—	○	無	

※基本協定書上の月報等提出期限 翌月 の 10 日まで

2 収支状況

評価 B

(評価の目安)

収支計画（支出額）と比較して

- A：収支状況が良好である（収支差額のプラスが10%以上）。
 B：概ね計画どおりの収支状況である（収支差額がプラスマイナス10%未満）。
 C：計画と異なり、収支差額に10%以上20%以下のマイナスが生じている。
 D：計画と異なり、収支差額に20%を超える大幅なマイナスが生じている。

単位：千円

		収入額（自主事業収入は除く）				支出額		収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		うち納付金	
募集時の県積算額 (参考)		79,955	6,400	525	86,880	86,880		0
年度計画	前年度	80,055	6,300	525	86,880	86,880	0	0
	上半期	40,020	3,200	225	43,445	43,445		0
	下半期	40,035	3,100	300	43,435	43,435		0
	今年度	79,955	6,400	525	86,880	86,880	0	0
	上半期	39,900	3,200	263	43,363	43,440		▲ 77
	下半期	40,055	3,200	262	43,517	43,440		77
上半期合計		39,900	3,086	107	43,093	37,319		5,774
対収支計画比		0.0%	▲ 3.6%	▲ 59.3%	① ▲ 0.6%	② ▲ 14.1%	③	13.3%
通年実績	10月	6,650	472	5	7,127	6,511		616
	11月	6,650	590	16	7,256	5,699		1,557
	12月	6,650	586	7	7,243	6,260		983
	1月	6,650	481	9	7,140	5,820		1,320
	2月	6,650	375	26	7,051	7,500		▲ 449
	3月	6,805	425	30	7,260	10,300		▲ 3,040
	下半期合計	40,055	2,929	93	43,077	42,090	0	987
	対収支計画比	0.0%	▲ 8.5%	▲ 64.5%	① ▲ 1.0%	② ▲ 3.1%	③	2.3%
	通年合計	79,955	6,015	200	86,170	79,409	0	6,761
	対収支計画比	0.0%	▲ 6.0%	▲ 61.9%	① ▲ 0.8%	② ▲ 8.6%	③	7.8%
参考	前年度 下半期実績合計	40,035	3,060	85	43,180	38,085		5,095
	対前年度 下半期実績比				▲ 0.2%	10.5%		

※その他収入の内容 雑収入等

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	収支計画と異なる理由等
① 収入の増減（収支計画対比±10%以上）	×	×	×	
② 支出の増減（収支計画対比±10%以上）	○	×	×	
③ 収支差額のマイナス（収支計画収支差額対比）	×	×	×	

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
 基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：100万円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期		
下半期		
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

3 利用状況

評価 D

(評価の目安)

今年度下半期利用者数が、
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

目標利用者数等を設定していない場合、前年同期対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～95%未満
- D : 85%未満

入所施設等定員がある場合、定員比で

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	3,685 人	4,098 人	89.9 %
11月	5,803 人	6,064 人	95.7 %
12月	3,504 人	4,147 人	84.5 %
1月	2,590 人	4,387 人	59.0 %
2月	3,618 人	5,148 人	70.3 %
3月	3,748 人	4,838 人	77.5 %
合計	22,948 人	28,682 人	80.0 %

	利用者数	前年同期利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
下半期計	22,948 人	28,682 人	人	① %	② 80.1 %
上半期計	26,711 人	24,668 人	人	① %	② 108.3 %
合計	49,659 人	53,350 人	人	① %	② 93.1 %

※目標値の設定の有無

設定していない

※ホール及びギャラリーの利用率目標値 ホール80%、ギャラリー65%

下半期実績 ホール90.91% (120/132)、ギャラリー56.95% (86/151)

年間実績 ホール89.61% (250/279)、ギャラリー60.26% (185/307)

利用状況に関する確認等

確認項目	[参考] 上半期	下半期	通年	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標対比増減率105%以上または95%以下)				利用者数の目標値は設定していない。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	○	○	○	下半期の前年同期比80.1%は、昨年度1月に開催した金澤翔子展が大変好評であったこと、また今年2月の大雪の影響により自主事業(コンサート)の延期や貸館利用のキャンセル、貸館の大口利用者の減少などの影響による。相模湖交流センターは相模原市立「相模湖記念館」との合築施設でもあるため、貸館利用や自主事業利用の少ないゴールデンウィーク、子供達の夏休みや冬休みなどに子供達が楽しみに来館してもらえるような施設運営が必要であると共に、来館者の確保に向け、魅力ある自主事業等の開催を目指す。

<参考>

施設の最大利用可能人数

	多目的ホール	研修室A	研修室B	主催者控室A	主催者控室B	合計
定員(1日あたりの延べ人数)	456	20	20	6	6	508
年間利用可能日数	279	307	307	307	307	
最大人数	127,224	6,140	6,140	1,842	1,842	0 143,188
半期	63,612	3,070	3,070	921	921	0 71,594

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

4 利用者の満足度（アンケート結果）

評価 A

(評価の目安)

「満足」（4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階）と答えた割合が

A：80%以上

B：60%以上～80%未満

C：40%以上～60%未満

D：40%未満 又は（A～Cにかかわらず）「不満足」と答えた割合が50%以上

－：今期は実施していない

	とても 良い	良い	普通	悪い	とても 悪い	合計	上位2段階 の割合
総合満足度の回 答結果	182	271	78	1	1	533	453 (85.0%)
〔参考〕 上半期結果	217	352	120	4	2	695	569 (82.0%)

※今年度の実施予定

上半期 17 回

下半期 13 回

その他

※配布・回収件数

配布 1,195 件

回収 611 件

回収率 51.1% %

※実施方法

利用者等に配布

5 苦情・要望等

評価 B

(評価の目安)

A：要望等を積極的に把握して改善を行う等、サービス向上を図った。

B：指定管理者に起因しない苦情・要望等があったが、適切に対応した（苦情・要望等がない場合も含む）。

C：指定管理者に起因する苦情・要望等があったが、適切に対応した。または、指定管理者に起因しない苦情・要望等があり、適切に対応していない。

D：指定管理者に起因する苦情・要望等があり、適切に対応していない。

報告件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数	0	0	0	0	0	0
下段：報告件数のうち所管 課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
〔参考〕上半期結果	0	0	0	0	0	0
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

苦情・要望等への対応

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

※ 指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

6 事故・不祥事等

評価

A

(評価の目安)

- A : 事故・不祥事等を防止するために積極的に取り組み、事故等が発生しなかった。
- B : 軽微な事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した（事故等が発生していない場合も含む）。
- C : 事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した。または、軽微な事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。
- D : 事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。

発生状況及び対応状況

該当なし

発生日	事故等の概要	原因・問題点	指定管理者の対応状況・改善策等

随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果等
()		
()		
()		